

水産多面的機能発揮対策事業

教育・学習活動報告

船橋市漁業協同組合活動グループ

吉種 勇

柴田 進介

船橋市経済部農水産課

梅田 新也



地域や漁業の概要



船橋市の概要

位置：千葉県北西部、東京湾の最奥部

人口：62万人以上

主要産業：京葉コンビナートにおける食料品製造業

ショッピングセンター：ららぽーとTOKYO-BAY， IKEA

観光スポット：中山競馬場， 船橋競馬場， アンデルセン公園

船橋市非公認キャラの
ふなっしーが人気です



船橋市の農水産業

農業：小松菜、人参、梨などが盛んで、畑にマンションが隣接している中、都市型農業が営まれています。

水産：三番瀬で行われる、アサリやホンビノスガイなどの貝漁や海苔養殖、スズキなどの魚をとる、まき網漁や底引き網漁が盛んです。



地域や漁業の概要



漁場の面積：898.39ha(東京ドーム191個分)



船橋市の漁業の歴史

三番瀬は、江戸時代には徳川家の御菜浦（おさいのうら）として将軍家に魚介類を献上するほどの良好な漁場でした。

昭和40年代 大規模な埋立て

埋め立てにより、漁場が狭まり、近年では貧酸素水塊による青潮が毎年のように発生して生物被害を出し、漁獲高にも大きな影響を与えています。

船橋市の漁業(海苔漁業)

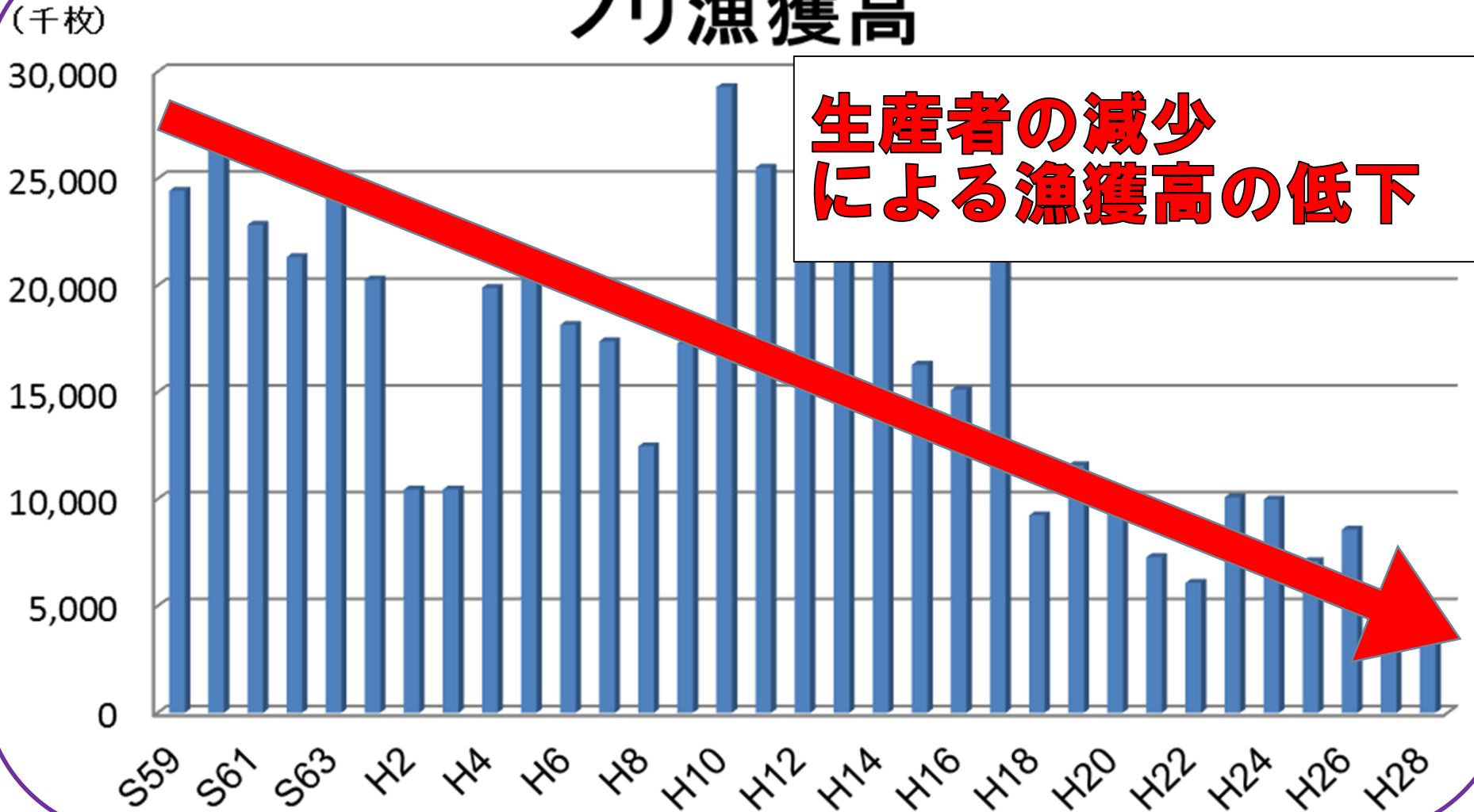
沖合に支柱柵を立てて網を張って海苔を育てる伝統漁法「竹ひび式」にこだわって海苔を作っている。

できあがった海苔は「船橋三番瀬海苔」としてブランド化されている。



船橋市の漁業(海苔漁業)

ノリ漁獲高



船橋市の漁業(採貝漁業)

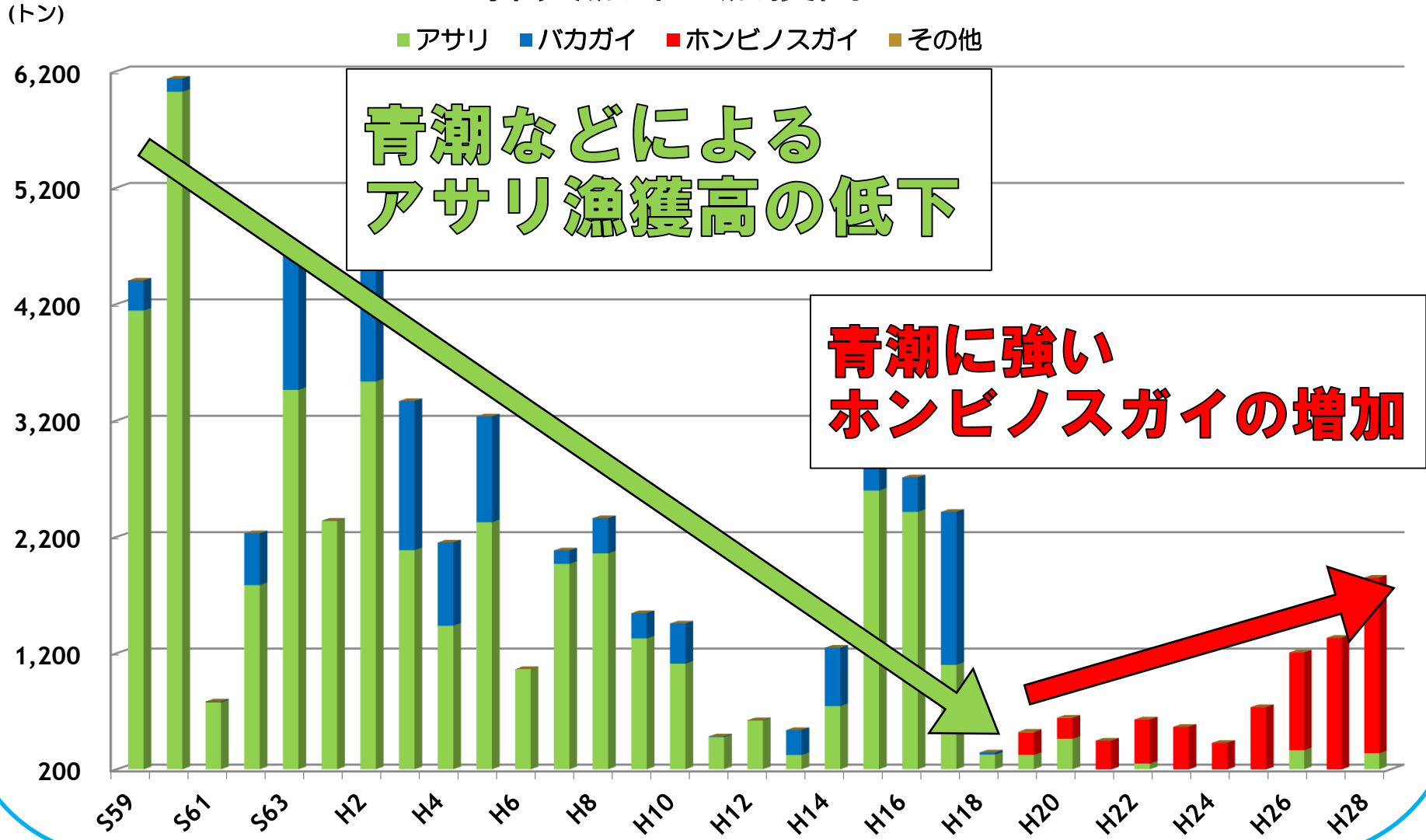
まきカゴと呼ばれる鉄のかごを使い、海底を掘り起こしてアサリやホンビノス貝などの貝を収穫する。

近年では、ホンビノス貝の漁獲量が増加している。



船橋市の漁業(採貝漁業)

採貝漁業 漁獲高



船橋市の漁業（まき網漁業）

魚群の周りを網で取り囲み、網を徐々に狭めて魚を獲るまき網漁。

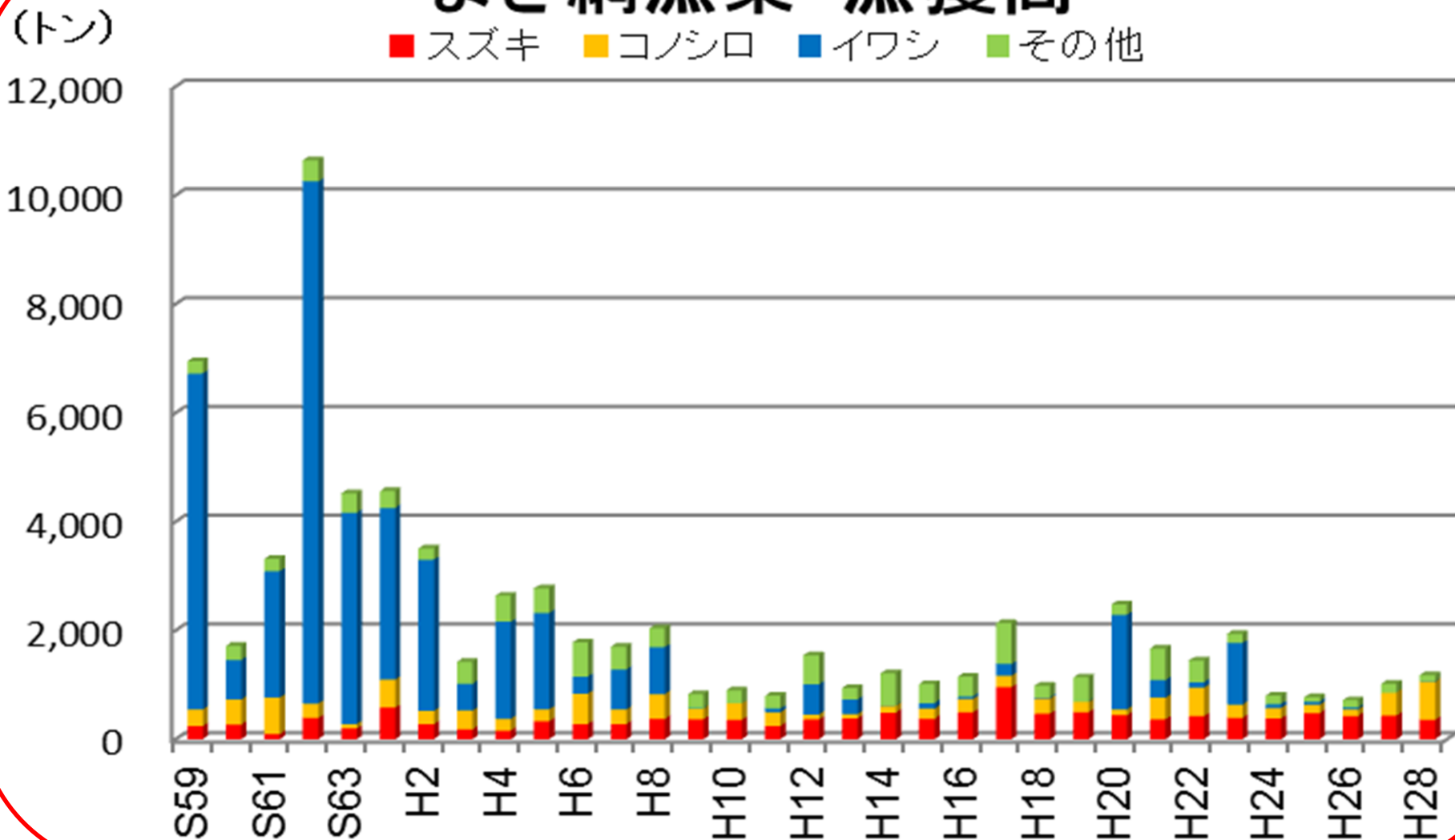
スズキ、イワシ、コハダなどが入る。

船橋港はスズキとコノシロの水揚げが日本一となっている。



船橋市の漁業(まき網漁業)

まき網漁業 漁獲高



船橋市の漁業（底曳網漁業）

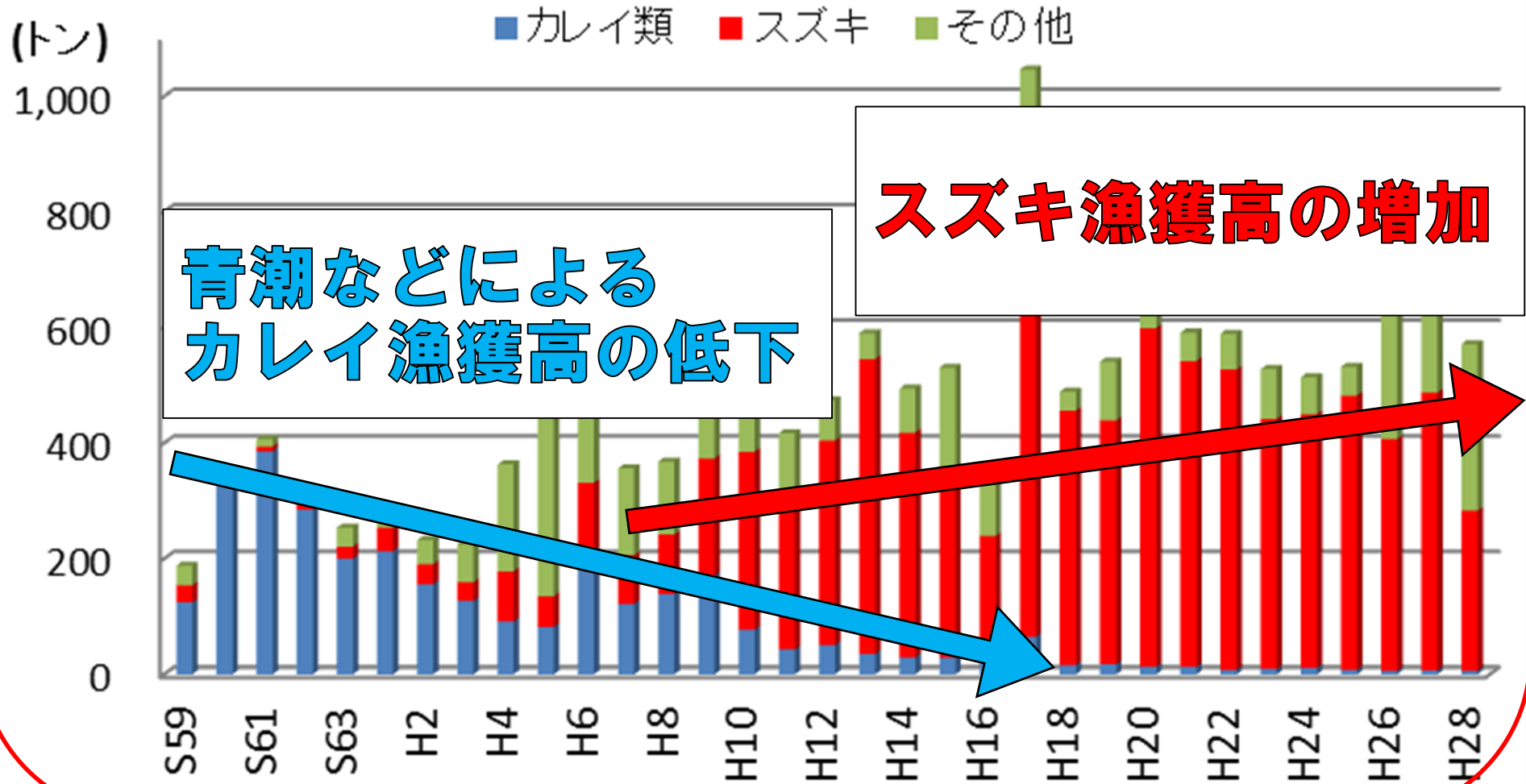
袋状の網を水中に入れ、船で引き回して魚などを獲る漁。

かつてはカレイなどの底棲性の魚類が多かったが、貧酸素水塊（青潮）の影響で減り、変わってスズキが増えている。



船橋市の漁業(底曳網漁業)

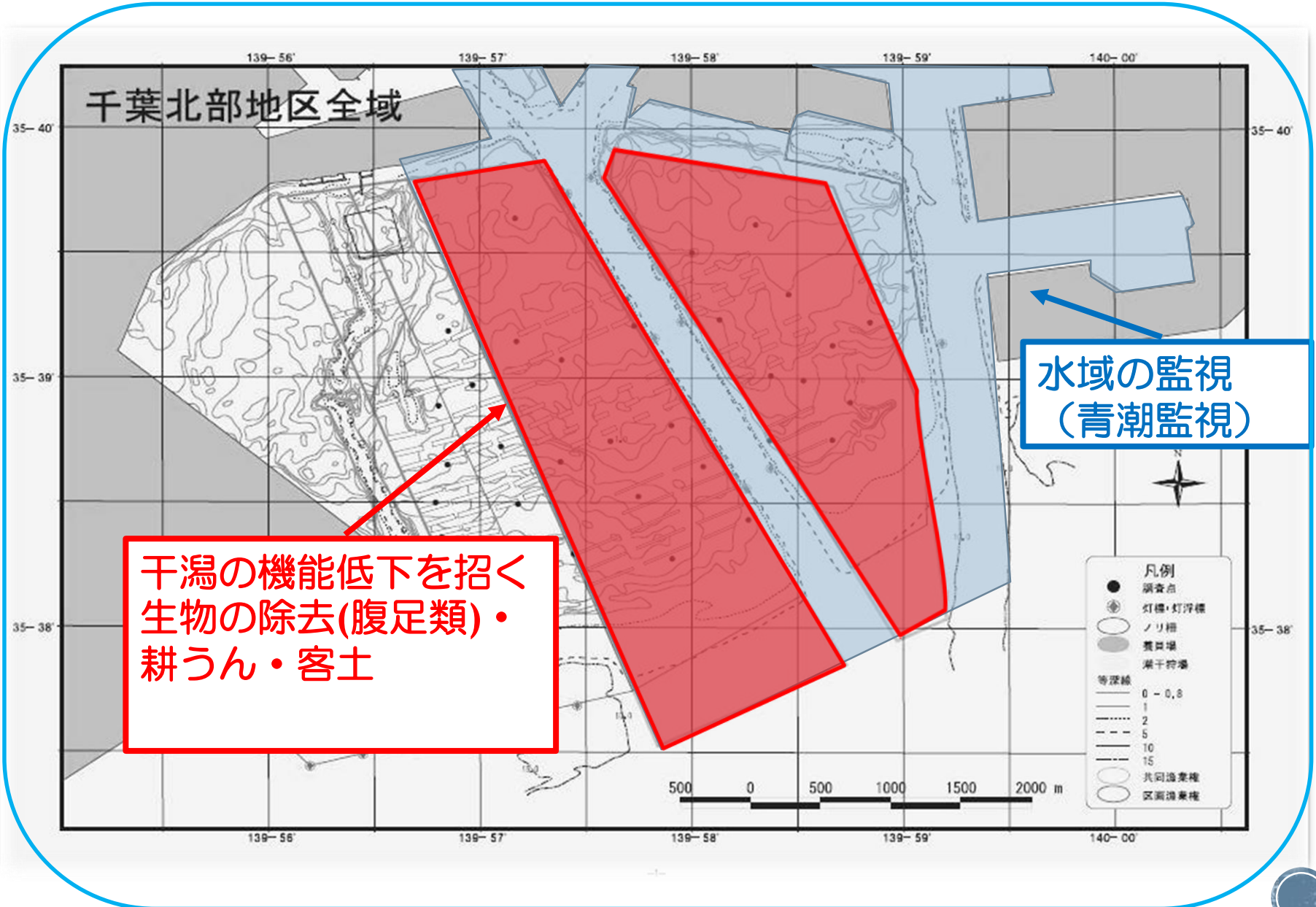
底曳網漁業 漁獲高



活動組織の概要



多面的事業について



多面的事業について

活動メンバーの構成について

漁業者

(船橋市漁業協同組合)

地元の人

(漁業者の奥さんなど)

観光協会

街歩き
ネットワーク



多面的事業について

◎主な実施項目（平成29年度）

●干潟等の保全

- ・機能低下を招く生物の除去（腹足類・節足類）
- ・客土
- ・耕うん
- ・モニタリング
- ・教育・学習

●国境・水域の監視

- ・監視活動（青潮の監視）
- ・教育・学習



多面的事業について

ツメタガイの駆除



ウミグモの駆除



→アサリの食害防止



多面的事業について

客土



砕石を覆砂することでアサリが留まりやすい環境を作る。



多面的事業について

耕うん



底曳網漁業のガタを用いて海底を耕すことで地盤をやわらかくする。



多面的事業について

青潮の監視

平成29年6月19日 船橋港



海底の貧酸素水塊が浮上することで**青潮**が発生。



教育・学習 活動の目標と計画



教育・学習活動の目的

船橋の漁業について知ってもらう
船橋の海について知ってもらう



船橋の海を守る活動（＝多面的事業など）
の大切さについて知ってもらう



平成29年度の主な漁業体験

- 学校の先生への漁業体験（2回）
- 小学生向けの漁業体験（9回）
- 一般募集（大人向け）の漁業体験（5回）
- 一般募集（子ども向け）の漁業体験（3回）

- 平成25年度：1回
- 平成26年度：6回
- 平成27年度：6回
- 平成28年度：8回
- 平成29年度：9回

徐々に増加



漁業体験の配布資料



小学生の漁業体験当日のスケジュール

- 9：00 集合・内容説明
- 9：10～ 海苔すき体験
- 10：00～ 船に乗って漁場見学
- 12：00～ 昼食
(ホンビノスガイの味噌汁ほか提供)
- 13：00～ 船橋の漁業についての講義・学習
- 14：00～ 各自海苔を持って解散



海苔すき体験

今はもう行われていない、昔ながらの手すき、天日干しの行程を体験します。



手すきでの海苔すき体験を行います。



すいた海苔は、自分で干していきます。



漁場見学

船に乗って、漁の様子や漁場などを見学します。



「貝殻島」を見学します。



底曳き網漁を見学します。



海苔の漁場を見学します。



南極船「しらせ」を見学します。



昼食(ホンビノス貝の味噌汁)

各自持ち寄ったお弁当に、ホンビノス貝の味噌汁を提供します。



船橋の漁業についての講義・学習

漁業の講義を聞き、今日の体験で学んだことや、船橋の漁業について勉強します。

(参加人数が多いため、2会場で講義を行った)



海苔の取り込み

自分たちで作った海苔を受け取り、
解散となります。



のりが乾くときの音（「海苔が鳴く」
音）を聞きます。



自分たちが干した海苔をもらって、解
散です。



小学生の漁業体験実施までのスケジュール

5月頃：校長会・教頭会で市から説明

1 1月頃：学校の先生の事前体験

1～2月：小学校の漁業体験

事前体験を実施することで、先生が漁業体験用のしおりを作ったり、体験後のフォローをしてくれるようになった。

漁業についての理解がより深まる！



漁業体験(多面的事業)以外の広がり

漁業の講義を始めは市職員が行っていたが、活動グループのメンバーも講義を実施するようになった。

漁業体験で子どもたちに説明する資料がほしい！

「船橋の漁業」
PRビデオを作成



活動の成果

漁業体験を通じ、子どもたちはもちろん、先生にも漁業について知ってもらい、船橋の漁業について広めることができた。

今年度に向けて

「船橋の漁業」PRビデオも活用し、より分かりやすく漁業を伝えていきたい。

